

議長定例記者会見 会見録

日時：令和8年1月20日 10時30分～
場所：全員協議会室

1 冒頭発言

○新年を迎えて

2 質疑項目

○新年の抱負

○議長・副議長の任期について

○県職員採用における国籍要件の見直しについて

○衆議院の解散、総選挙について

1 冒頭発言

○新年を迎えて

(議長) 改めまして新年、明けましておめでとうございます。今年もどうぞよろしくお願いを申し上げます。ただ今から1月の議長定例記者会見を始めさせていただきます。新年を迎えて、一言申し上げます。昨日、1月19日から令和8年定例会が開会をし、県内で発生しました鳥インフルエンザや、衆議院議員総選挙に対応するための補正予算を審議し、速やかに議決したところでございます。2月17日からは、2月定例月会議が始まります。ここでは、令和8年度当初予算についての審議を中心進めることになります。防災・減災や子ども・子育て支援の取り組み、産業振興、観光振興やプロモーション、人口減少対策など、さまざま課題に対し、私たち議会からの申し入れや提言等を踏まえた効果的な取り組みとなっているか、しっかりと審議する必要がございます。全議員が本会議、委員会等を通じて活発に議論できるよう、副議長とともに、議会運営に当たっていきたいと思います。今後も、全議員が県民の皆さまの負託に応えるべく、懸命に取り組んでまいりますので、引き続き皆さまのご理解とご協力をよろしくお願いを申し上げます。今年最初の記者会見でありますので、副議長からもお願いをしたいと思います。私からは以上でございます。

(副議長) 改めまして、新年、明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。座って失礼いたします。私は、広聴広報会議の座長という立場でございますので、広聴広報について一言申し上げたいと思います。広聴広報の取り組みは、「開かれた議会」を進める上で最も重要な役割であると考えております。2月には、今年度2回目となります「みえ現場 de 県議会」の開催を、また、年度が変わりまして8月には「みえ高校生県議会」の開催を予

定しておりますので、その準備などを進めているところでございます。今後も、「若者の政治への関心を高める」ということを意識しながら、多くの県民の皆さんに県議会の活動への関心を持っていただけますよう、引き続き広聴広報の取り組みを進めてまいりたいと思っておりますので、記者クラブの皆さんにも変わらず、ご協力のほどよろしくお願ひ申し上げます。私からは以上です。

(議長) どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

2 質疑項目

○新年の抱負

(記者) 発表項目は、特に今日はないということですね。それでしたら、幹事社のほうから質問させていただきます。まず冒頭の今年の抱負、語っていただきましたけれども、議長から特に今年、何か新しい取り組みであったりとか、また、県執行部のほうの取り組みなどを踏まえて、特に今年、こういったことに努めていきたいということを挙げていただくとしたらいかがでしょうか。

(議長) 県執行部の取り組みについてはちょっと、私、今考えはございませんので、また改めていろんな場で、記者会見の場でもお話をさせていただきたいと思います。私も昨年度、抱負というような状況ではないんですが、12月24日の定例議長会見において、やはり皆さん議員お一人お一人がいろんなご意見を持っておられるし、それに対してわれわれもそういったお一人お一人の声をしっかりとくみ取りながら、議会を進めなきやいけないとも考えておりますし、私自身は、昨年度この継続ということを自分自身、2025年はつなげるということで、継承する、これ150年の県政の歴史をしっかりとわれわれも理解をしながら前へ進めていく。そしてまた新しい2026年に対しては、それをしっかりと議員の先生方と協議をしながら前へ進めていく。もちろん、今日、正副議長としてしっかりとした対応を貫いていきたいということで考えておりますので、その点は執行部のいろんな議案に対してとか、そういったことに関しては、今、申し述べることはないと思います。

(記者) 議会の取り組みとして、何かこう新しいことを進めたいということはありますか。

(議長) 新しいことを取り組みというのは、今、考えておりません。

(記者) 昨年からの取り組みを引き続き。

(議長) はい。

(記者) 副議長として、今年、広聴広報の取り組みで新たな、高校生県議会、今年はあるということですけれども。

(副議長) 来年度ですね。

(記者) 何か具体的な取り組みとして挙げていただいたら、注力する取り組みとしていかがですか。

(副議長) そうですね。まだ今年度の取り組みでも、先ほど言いました、2回目の現場 de 県議会が離島の振興ということで、今、準備をさせていただいておりますのでそれをしっかりと実りあるものにしたいということと、学校への出前講座もまだいくつも残っておりますので、それをしっかりとさせていただきたいということと、来年度の高校生県議会の準備を今年度から始めて、もう募集とかもかけていきますので、それについて、しっかりと来年引き継げるよう準備を進めたいなと思っております。

○議長・副議長の任期について

(記者) あと一つ、すいません。今年はまた5月に役員改選が、議会の、あると思われるんですね。その上で、議長にも改めてお尋ねするんですが、ご自身として、議長職としていつまで続けられる予定か。

(議長) 議長の任期は2年ということでございますので、一区切りつけるということは、5月までに考えております。そうした意味で、自分がもう一度、もう1年、議長として働かせていただくのかどうかということを一番最初の記者会見のときに、会派のメンバーともしっかりと協議しながら、前へ進めていくということをお話しをさせていただきましたので、まだ今の時点で、この2年目を迎えるかどうかということは、私を必要としておられるのかどうかということも含めて、議員の先生方に問いたいとも思っております。

(記者) そうすると、手続きとしては一旦は辞職した上で。

(議長) いや、違います。

(記者) そのまま続ける可能性もあるということですか。

(議長) そういうことです。

(記者) あとは会派と相談しながらということでござりますね。

(議長) はい。

(記者) 副議長にも同じ質問でお尋ねしますけれども、任期へのお考えはいかがでしょうか。

(副議長) 私は1年任期ですので。

(記者) もちろん他の方に引き継がれるということでおよろしいですか。

(副議長) はい、そうです。

(記者) 各社さん質問あればお願ひします。

○県職員採用における国籍要件の見直しについて

(記者) 知事が先月、方針を表明された国籍、県職員の方の採用試験に、日本国籍の方のみを対象とするような検討を進めるという表明がありましたけれども、改めてこれに関する議会への説明があったのかどうかっていうところと、率直にその議長として何か、この政策に関して思われるがあつたらお願ひできればと思います。

(議長) 昨日、総務地域連携交通常任委員会で協議をいただいたということも確認をさせていただいておりますし、今後継続して、その件に関しては、委員会で協議をしていただくということなので、私からは、今コメントは控えさせていただきたいと考えております。

(記者) 今後、これ表明を受けて、県議会として何か協議会を設けるとか、何かアクションをするとかそういう予定は今のところない。

(議長) 今のところは何もございません。肅々と委員会の中で、どのような方向性を考えておられるのかどうかも含めて、われわれは見定めなきやいけない部分がございますので、そういったところの節目がいずれ来ると思ひますので、そのときは正副いろいろと考えていきたいと思います。

(記者) 冒頭の抱負、語っていただいたこと以外でも質問大丈夫ですけどいかがでしょうか。

○衆議院の解散、総選挙について

(記者) 突然の衆院解散となりました。まず、この件への受け止め、率直にお尋ねしたいんですけど、いかがでしょうか。

(議長) 昨日、高市総理から解散をすると、23日に解散をするということはニュースでも確認をさせていただきました。噂に上がっておりましたので、当然執行部へいろいろと確認をし、来年度予算といいますか、令和8年度予算の動きということはどうなのがということは確認はさせていただきました。実際、高市総理、解散ということを言わされましたけども、私たち地方議員としては、急な解散であったのかなという思いでしかございませんので、その点は、総理が決定をされたことは、われわれはしっかりと考えていかなきゃいけないと思いますし、受け止めなきゃいけないのかなという思いです。ですがやはり、来年度令和8年度予算に影響があるのかどうかということが非常に心配でありまして、その点は間違なく進んでいくだろうと思います。この令和7年度の3月までの予算というのは、当然、前総理である石破総理の時点からの継続でございますので、また新たな高市総理が、令和8年度の予算等に関しては、しっかりと国でも審議をしていただけるんだろうと思いますが、少し遅れるのは、予算等が心配でちょっと確認はしましたけど、まあ大丈夫だろうということは聞いておりますので、その点は安心しております。

(記者) その上で、議長、政治家としての議長個人のお話ですけど、これは所属されている政党もあるわけであって、例えばですね、政党であったり県連のほうから候補者支援の要請があつたりとかですね、選挙活動、何か協力して取り組まれるというようなお考えがあるのか。それとも議長という職をもって、そういうことを控えられようとしているのか、今のスタンスいかがですか。

(議長) 私は当然、自由民主党の公認でありますので、その点は、自分の選挙区といいますか、私は三重郡でございますので、候補者も決定をされておりますし、その点、われわれは要請があれば個人演説会とかそういったところにも、私議長でありますけども、しっかりと言葉を選んで応援に入らしていただきたいなど考えておりますけど。要請があればですけどね。なかつたら私行けませんので。勝手にはどうだということは申し込みはしません。

(記者) 同じ質問を副議長のほうにもお尋ねしたいんですけども。解散の受け止め、それから、政治家としてのスタンス。

(副議長) 解散については、ちょっと手前から漏れてはいたとはいえ、やっぱり投票までの期間がすごく短くて、十分にその政策議論、各党を比較して投票でき

るのかなというところは少し心配かなと思っています。選挙に対する応援については、参議院選挙のときと同じように、副議長という肩書ではなく、地元の一議員として、応援活動なり政治活動なりはさしていただこうかと思っています。

(記者)ありがとうございます。各社さんいかがでしょうか。発表項目以外でも、ございませんか。

○衆議院の解散、総選挙について

(記者) 衆院選の関連でなんですけども、議長として今回の衆議院選挙、大義、争点っていうのはどのように感じますかね。

(議長) 昨日の高市総理の会見を拝聴させていただいて、理解する部分は非常に多くございます。高市総理が総理になられてからまだ3カ月弱ですか、やはりその中でご自身の内閣としてやりたいと、こういう方向性というものはまた高市カラーが出てくるんだろうと思いますし、衆議院選挙が急な形で決定をしたということに関しては、私個人といたしましては、もう少し、今の予算が、今物価高であり、そしてまた、非常に厳しい国際情勢ということもありますので、そういういたところも踏まえて、私個人としては、3月末、しっかりと、まだ選挙を逆に5月か6月かというような思いは考えておりました。ですが、高市総理が考えられたことに関しては、当然、しっかりと受け止めをさせていただきたいと思います。

(記者) ありがとうございます。

(記者) 他よろしかったですか。

－第二県政記者クラブも含めてお願ひします－

○県職員採用における国籍要件の見直しについて

(記者) 県職員採用の国籍条項復活検討の件なんですけど、それについて議会の意思がどうとかこうとかそういうことじゃなくて、今回のそのやり方そのものですね、結構その議会軽視と捉えられてもしょうがないような面があると思うんですけど。例えば昨日の総務関係常任委員会聞いてもですね、当局側、全くその嘘言ってますよね。12月25日の定例記者会見録読んでいただいたらわかりますが、その時に、早ければ令和8年度採用からっていうことを、一応、知事自身が言ってですよ、でも昨日、副部長とかの答弁、人事課長の答弁はまだ何も決めてないと。これは完全に嘘は言ってはいけないっていう地方公務員法違反じゃないですか。で、昨日芳野委員長もその辺を、知事の話と当局側の事

務方の意見が違うということを注意されてるんで、議会としてはですね、本来的にあまりにも議会軽視してるということと、それとこのやり方おかしいと、かつてもの言った県議会が（知事与党が多くて）、今もの言わぬ県議会になってると思うんですけど、その辺はどう考えられますか。

（議長） 今のご質問でございますけども、委員会、私もちよつと申し訳ないんですが、確認はしていなかったもんですから。今日は資料を多分いただけたと思います。そうしたところをしっかりと精査させていただいて、私と副議長、今後どうするかということも踏まえて、努力をさせていただこうと思っております。これ違反とか違反じゃないとかいうことで今お話もありますけども、議会軽視という状況を言われておられる方もあったのかなと思いますが、その点ちょっと確認をさせていただいて、委員会の中で協議されたことをしっかりと私たちも、その考えに関して精査させていただいて、前へ進めていきたいと思っておりますので、その辺のところはもう少しお時間をいただきたいと思います。議会軽視という方向性っていうのは、私自身は考えておりません。議会というものは当然、二元代表制であり、当然記者さん言われるように、これは議会軽視だらうということを言われるか分かりません。ですがやはり、そういうところをしっかりと、われわれももう一度確認をし、知事とも話をさせていただこうと考えておりますので、直接お聞きをしたいなと思っております。正副で、知事に時間取っていただいて、もう一度確認をさせていただこうと思っております。ですから、アンケートを取る取らないというのが少し早い目に出できましたもんですから、その点はいろんな議員の先生方も心配があったんだろうと思いますし、疑念を抱かれたのかなと思いますので、その点は知事のお考えも含めて、私は議会軽視だという表現はしませんけども、どうなのかというのは確認はしたいと思います。

（記者） いやだから、12月25日以降のこの1月の知事会見でも聞いてますけど、ご本人も認めてますが、県民の代表は県議でしかないんですよね、地方自治法上。で、それはご本人もそうだと言つてると。にもかかわらず、なんで県民1万人アンケートにその国籍条項の件を先んじてやってですよ、議会に、説明が正副議長か、関係正副常任委員長に12月23日に伝えられて、あとその全協で説明することもなく代表者会議にも載せないで、それを執行しようとしてるのか、そのところは議会軽視と言つてもしょうがないですよね。むしろ議員自身がもっとそこを怒らなきやいけないと思うんですよね。でもそういうことが結局知事与党になってるから、さっき言ったみたいなもの言わぬ議会になってんじゃないかという話です。そういうことを含めて、副議長はどう思われます。昨日、芳野委員長はかなり言われてましたけど。

（副議長） 23日に私も執行部から説明を、議長もそれぞれが聞いてるんですけど

れども、確かに唐突感はありました、それについての対応につきましては、今、常任委員会でもちろん議論していただいておりますし、それを受けて正副議長としてこれから検討させていただくということで議長がお答えいただいておりますので、そのように進めさせていただくということかと思います。

(記者) 改めてその議長にお伺いしますけど、正副で知事と、この件について最終的に何か話し合う場っていうのは、今後設けられるんですか。

(議長) 今後、知事に申し入れをしたいと考えておりますので、その点は、何日になるかわかりませんが、早いうちに知事と面談をしたいと思っております。

(記者) 以上です。

(記者) よろしいでしょうか。それでは終わります。ありがとうございました。

(議長) どうもありがとうございました。2026年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。ありがとうございました。

(以 上) 10時51分 終了